



第2回（2011年度）調査のご報告

生物多様性を向上させることは、
あなたのお庭からでも始めることができます。

「NPO 法人生態教育センター」では、2010年度から他のNPOや環境省・企業などと協働して、皆様のお宅のお庭にはどのような生きものがいるのかを調べる「お庭の生きもの調査」を実施しております。2011年度に実施した「第2回調査」は、以下のような結果となりました。

●第2回お庭の生きもの調査 概要

- ▽主催 : 特定非営利活動法人 生態教育センター
- ▽後援 : 環境省 生物多様性センター
- ▽協力 : 積水ハウス株式会社
- ▽調査目的 : 個人宅の庭を訪れる生きものを定点で観察し、そのデータを収集すること。ここで、生物多様性の現状把握と保全・回復のための施策立案の基礎データとして活用すること。
- ▽調査期間 : 第2回お庭の生きもの調査 平成23年5月1日～8月31日
- ▽調査参加庭数 : 176庭（調査参加者数：912名）
- ▽調査報告件数 : のべ 4,120件
- ▽参加者居住地 : 北海道石狩市から、沖縄県中城村までの全47都道府県
- ▽参加者年齢層 : 未就学児童を含む家族から、80歳代の方まで

2011年度調査で確認された生きものは、407種（昆虫類：318種、鳥類：31種、両生類：7種、は虫類：8種、ほ乳類：3種、その他：40種）になりました。2010年度調査とほぼ同じように、アリの仲間は97%、クモの巣も97%、スズメは95%の庭で見つかり、カエルの仲間も50%の庭に棲んでいる……など、市街地の生物多様性における「お庭」の大切さが、少しずつですが浮き彫りになってきました。

ご協力ありがとうございました。



●調査概要

▽指定した 20 種の生きものを庭で見かけたら、シートに○を付けるだけの、初めての方でも簡単にできる生きもの調査。

▽調査参加庭数 : 128 庭

▽調査報告件数 : のべ 364 件

●お庭で見られた生きものランキング (対象 20 種)

順位	種	目撃された庭数	報告のべ件数	%	2010年度調査でのランキング	
第1位	アリの仲間	124 庭	のべ319件	96.88%	アリの仲間	93.35%
第2位	クモの巣	124 庭	のべ313件	96.88%	クモの巣	91.14%
第3位	スズメ	122 庭	のべ321件	95.31%	スズメ	90.03%
第4位	モンシロチョウ	106 庭	のべ259件	82.81%	モンシロチョウ	72.30%
第5位	バッタの仲間	84 庭	のべ160件	65.62%	バッタの仲間	60.11%
第6位	アオスジアゲハ	78 庭	のべ172件	60.94%	トンボの仲間	55.40%
第7位	トンボの仲間	78 庭	のべ141件	60.94%	カマキリの仲間	48.20%
第8位	ヒヨドリ	75 庭	のべ151件	58.59%	カエルの仲間	47.92%
第9位	ベニシジミ	75 庭	のべ150件	58.59%	アオスジアゲハ	46.26%
第10位	カタツムリの仲間	71 庭	のべ138件	55.47%	ベニシジミ	45.98%
第11位	アブラゼミ	67 庭	のべ 98件	52.34%	カタツムリの仲間	42.38%
第12位	カエルの仲間	64 庭	のべ149件	50.00%	アブラゼミ	41.55%
第13位	カマキリの仲間	63 庭	のべ117件	49.22%	ヒヨドリ	41.27%
第14位	コオロギの仲間	55 庭	のべ 77件	42.97%	ツバメ	40.17%
第15位	ツバメ	53 庭	のべ114件	41.40%	コオロギの仲間	37.12%
第16位	シジュウカラ	45 庭	のべ 91件	35.16%	シジュウカラ	32.13%
第17位	ハチの巣	43 庭	のべ 67件	33.59%	ハチの巣	30.19%
第18位	ミンミンゼミ	43 庭	のべ 59件	33.59%	ミンミンゼミ	25.48%
第19位	メジロ	34 庭	のべ 52件	26.56%	メジロ	22.71%
第20位	クマゼミ	32 庭	のべ 48件	25.00%	クマゼミ	19.67%

●お庭と生きものとの関係

○カタツムリの仲間は、最近、都市の庭では数少なくなっています。その原因の一つは、都市の乾燥化で、棲みづらくなっていること。もう一つは、酸性雨の影響で、カルシウム不足に陥り、殻が作りにくくなっているのではと推測されています。

今回の調査では、約 55%のお庭で確認されていますが、この先も生きていけるかが心配です。



カタツムリの仲間

○メジロがやってくるお庭は、前回と同じように第 19 位、27%に留まっています。冬期の調査であれば、もっとたくさんの庭でツバキの蜜を吸ったり、カキの実などを食べる様子が見られると思われるのですが、夏は繁殖期なので、近くの里山へ帰っていることも考えられます。

でも、夏に確認されるお庭では、巣づくり・繁殖の様子がみられるようになるかも知れませんね。



メジロ

お庭にやってくる野鳥の調査

● 調査概要

- ▽指定した 16 種の野鳥を中心に、庭で見かけた野鳥の種類と数を記録する調査。
- ▽調査参加庭数 : 78 庭
- ▽調査報告件数 : のべ 239 件

● お庭で見られた野鳥ランキング (対象 16 種)

順位	種	目撃された庭数	報告のべ件数	%	2010年度調査でのランキング
第1位	スズメ	75 庭	のべ208件	96.15%	スズメ 91.10%
第2位	ヒヨドリ	51 庭	のべ119件	65.38%	ヒヨドリ 60.96%
第3位	キジバト	50 庭	のべ105件	64.10%	キジバト 50.68%
第4位	ツバメ	37 庭	のべ 85件	36.99%	シジュウカラ 48.63%
第5位	ハジブトガラス	36 庭	のべ 71件	46.15%	ツバメ 36.99%
第6位	シジュウカラ	36 庭	のべ 68件	46.15%	ムクドリ 32.19%
第7位	ムクドリ	29 庭	のべ 56件	47.44%	メジロ 29.45%
第8位	メジロ	23 庭	のべ 36件	29.49%	ハジブトガラス 26.03%
第9位	ハシボソガラス	15 庭	のべ 30件	19.23%	ハクセキレイ 18.49%
第10位	ハクセキレイ	15 庭	のべ 28件	19.23%	ハシボソガラス 17.12%
第11位	オナガ	15 庭	のべ 22件	19.23%	オナガ 10.96%
第12位	コゲラ	7 庭	のべ 10件	8.97%	コゲラ 10.96%
第13位	カワラヒワ	6 庭	のべ 9件	7.69%	カワラヒワ 8.90%
第14位	モズ	6 庭	のべ 9件	7.69%	モズ 4.79%
第15位	ヤマガラ	2 庭	のべ 2件	2.56%	ヤマガラ 4.79%
第16位	アオバズク	1 庭	のべ 1件	1.28%	アオバズク 0.68%

● こんな鳥たちもお庭に！ ～ その他 見られた鳥 ～

アオサギ	イカル	イワツバメ	ウグイス	エナガ
カササギ	カッコウ	コサギ	ジョウビタキ	
セグロセキレイ	チョウゲンボウ	ツグミ	ドバト	トビ
ヒバリ	マヒワ	ワカケホンセイインコ		



ツグミ



コゲラ



ジョウビタキ

● こんな鳥もお庭で見られています……

茂みに隠れるのが好きなウグイス、まとまった林が必要なエナガ、川や池で魚を捕るアオサギやコサギ、小鳥類やノネズミの仲間を捕まえるチョウゲンボウなど、「まさかお庭で・・・？」と思われる様々な野鳥が見られています。これからも、どんな鳥がやってくるか・・・楽しみです。



アオサギ



●調査概要

▽お庭で見かけたあらゆる生きものについて、種類と数を記録する調査。

▽調査参加庭数

: 71庭

▽調査報告件数

: のべ 3,071件

●お庭で見られた生きものの種類

種別	目撃された種数	報告のべ件数	2010年度調査と合わせた総計
昆虫	318種	のべ 2,221件	497種
鳥類	31種	のべ 313件	51種
両生類	7種	のべ 75件	9種
は虫類	8種	のべ 132件	13種
ほ乳類	3種	のべ 16件	5種
その他	40種	のべ 314件	61種
計	407種	のべ 3,071件 (曖昧な表記のものも含む)	636種

●こんな生きものたちもお庭に来ていました！

お庭の環境ではなかなか見られないと思われていた生きものや、そもそも出会うことが難しい生きものなどを発見した参加者の方もいました。

種	目撃された庭数	報告のべ件数
ヒグラシ	7庭	のべ10件
クルマバツタ	3庭	のべ3件
ヤマトタマムシ	3庭	のべ4件
ミヤマカワトンボ	2庭	のべ2件
ジャコウアゲハ	1庭	のべ4件
アブラコウモリ	1庭	のべ4件
アサギマダラ	1庭	のべ1件
アオバズク	1庭	のべ1件
トウキョウダルマガエル	1庭	のべ1件

●お庭を利用する生きものは600種類以上も確認されました。

2010年度に引き続き、多くのお庭で「お庭の生きもの目録」調査が行われ、昆虫類を始めとして2011年度は407種類、これまでと合わせて600種類以上の生きものが確認されました。「どのような生きものたちがお庭を利用するのか」は、これまで正確には分かっていませんでしたが、この調査の蓄積は、その答えに迫る大事な鍵となるはずです。



ヤマトタマムシ



ヒグラシ



ジャコウアゲハ



トウキョウダルマガエル



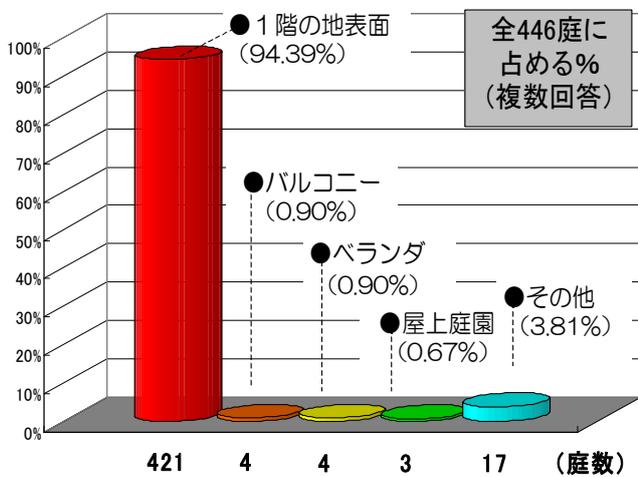
● **調査概要**

▽各調査のフィールドとなる、あなた家の「お庭」のプロフィールを把握します。
 ▽今後の継続的な調査と経年変化の把握によって、ゆくゆくはこれらの調査データを基礎として、「どんなタイプの庭が、どんな生きものにとって重要な役割を果たしているか?」「どんな庭と周辺地域の組み合わせが、より多くの生きものに利用されるのか?」「生物多様性保全に貢献するためには、どのような庭づくりが必要か?」などを考えていきたいと思ひます。

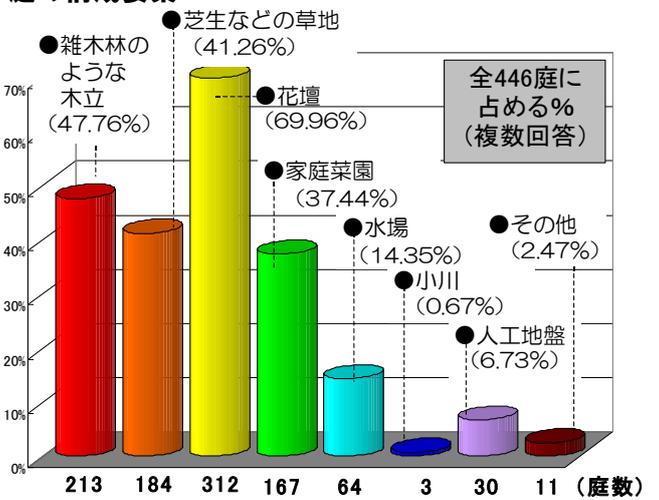
▽調査参加庭数：446 庭

● **ご協力いただいたのは、例えばこんなお庭でした……**

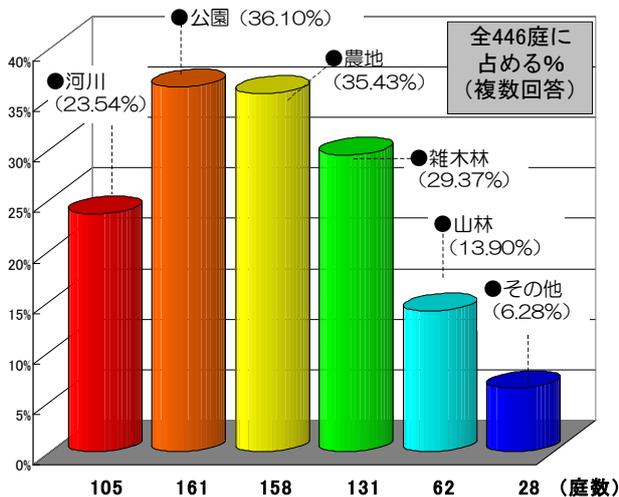
▼ **庭のタイプ**



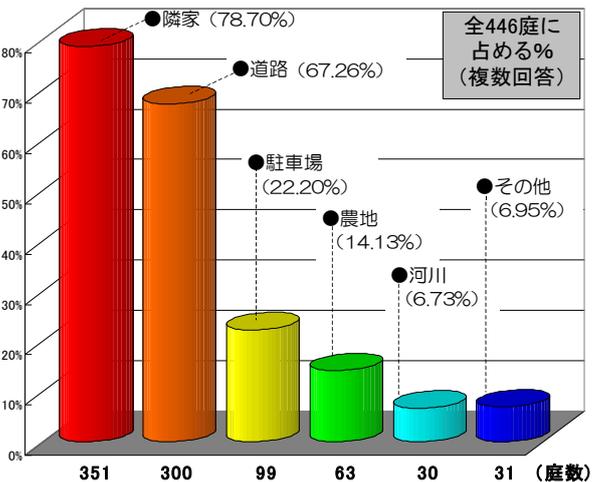
▼ **庭の構成要素**



▼ **一番近い緑地**



▼ **庭に接する環境**



- 「お庭の生きもの調査」は、以下のような考え方に基ついています。

『お庭の生きもの調査』の目指すもの

特定非営利活動法人 生態教育センター

理事長 小河原孝生

新宿の高層ビルが見える屋上の菜園では、昨年はアオドウガネ(コガネムシの仲間)が大発生。今年の春は、コアオハナムグリ(幼虫は根切り虫と呼ばれる)が目につきます。クマバチとニホンミツバチは、以前と変わらないのですが、今年はまだコマルハナバチを見ていません。そして、この10年ほどで、大きなミスジマイマイがいなくなり、3年前からは、11月に姿を見せるジョウビタキが定着しなくなりました。—昨年の夏は、ハラビロカマキリがいなくなり、アカトンボの仲間は激減しています。

このように、日頃見慣れた庭だからこそ、その変化に気づくのですが、一方では、記録がないと確実なことが言えません。これまでも、様々な市民団体や自治体が生きもの調査を進めてきましたが、大半は生きもの分布拡大や初認の時期を明らかにしようとするものでした。『お庭の生きもの調査』では、個体数の増減やまちづくりへの展開までを考慮し、次のような視点から取り組んでいきます。

1) 市街地の生物多様性は、基盤となる庭の緑が支えています。

昨年、名古屋で開かれた都市の生物多様性に関する国際会議では、「アーバン・マトリックス」の重要性が議論されていました。生息地悪化のプロセスでは、まとまった緑地に穴があき、緑地が分断され断片化し、さらに規模が縮小していきます。そして、ついには周囲の環境の影響により、その質＝生物多様性が消耗していくと云われています。しかし、それだからこそ、消耗の度合いは基盤となる都市の環境(アーバン・マトリックス)＝「点在する緑の質と量」によって左右されることがわかってきたのです。

今後、日本の人口の80%が首都圏、または地方の中核都市に集中すると云われています。つまりほとんどの日本人は、生息地が島のように断片化し、縮小化してしまっている土地に暮らすこととなります。その都市域に残っている小さな島のような生息地の生物多様性は、周囲の環境(庭や街路樹などマトリックスの緑)の多様性に依存しているのです。

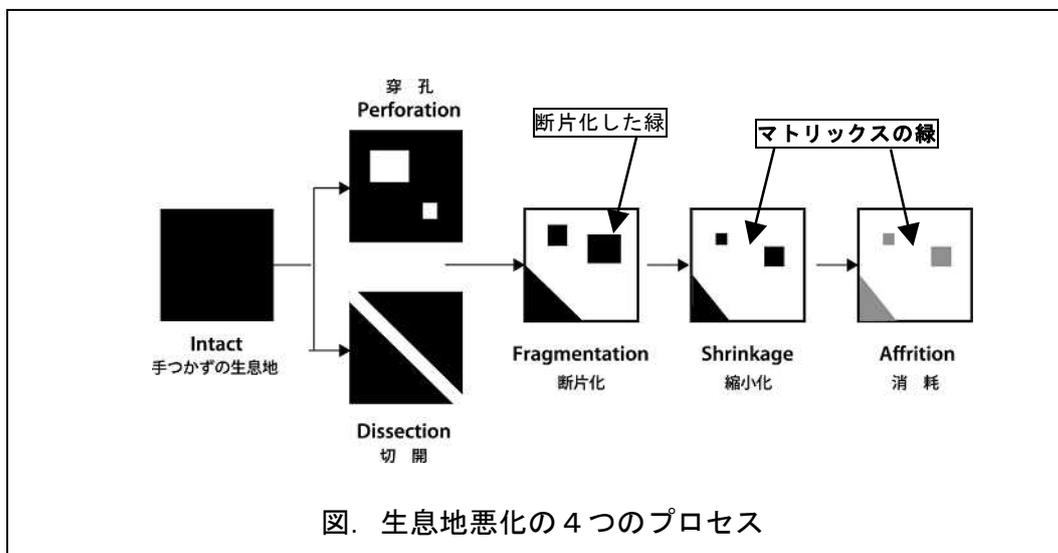


図. 生息地悪化の4つのプロセス

※第1回調査報告書に掲載したものと同一内容ですが、大切なことなので再度掲載しています。

2) 庭は、持続可能な定点調査地として有効です。

常に観察できる庭だからこそ、誰もが専門家の援助とコーディネートがあれば、同じ場所で定期的に、個体数の確認までが可能です。イギリスの鳥学会では、すでに80年以上にわたる定量的なモニタリング(ガーデン・バードウォッチ)を成功させています。私たちも、子どもたちからお年寄りまで、一緒に楽しく学びながら参加できるように、簡単に始められる初心者コースを設定しています。

3) 誰もが、自分の庭から生物多様性の保全活動を始めることができます。

重要なのは、「私たちの家の庭は、様々な形で生物多様性に影響を与えている」ということです。私たちの庭が、生物の多様性をより高める機能を持っているとすれば、そのような庭が増えることによって、全体としての街や都市の生態系に、大きな恩恵をもたらす事ができるのではないのでしょうか。

小さなベランダから大きな庭まで、その生物多様性を向上させることは、残された緑地や市街地全体の生物多様性を保全する事に繋がっています。そして、参加者の皆さんにとっては、①野生生物とともに暮らす楽しみがあり、②身近な生物の営みから、多くのことを学べ、そして何よりも③生物多様性の保全に貢献できる喜びがあります。

2010年の10月、名古屋で開かれたCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)では、国際的に様々な目標が示されました。私たちはこれを契機に、誰もが参加できる活動にするためにも、生物多様性を身近なものとして感じる『お庭の生きもの調査』を、継続していきたいと考えています。

「お庭の生きもの調査」では、少なくとも600種類以上の生きものが見つかりました。
庭から始まる生物多様性・・・今後もぜひご協力ください。

2011年(平成23年)4月15日(金曜日) 香取 佐賀 鹿児島 高知

読者新聞 しが県民情報

みんなで環境調査

身近な生き物や自然環境についての市民参加型調査が全国各地で行われている。参加無料で調査キットや資料などをもらえることが多い。自由研究や環境活動に適しており、親子で参加すればコミュニケーションを図る良い機会になる。

庭の生き物

「生物多様性」として「一般家庭の庭はじつはいろいろな生き物の家」を解き明かそうと、NPO法人生態教育センターの主催で10年から全国規模の「お庭の生きもの調査」が実施されている。これまでに約900人が参加した。



COP10会場で「お庭の生きもの調査」のデータが展示された。

家族で楽しめる「初心者コース」と生き物の種類や数などを詳しく調べる「調査員コース」がある。調査場所は自宅の庭、ベランダやバルコニー、屋上、マンションの共用の庭などでも構わない。5月8月、2週間〜1か月に1回、じっくり観察して見つけた生き物やその数などを報告する。決まった場所でも継続的にデータを取る定点調査だ。

10年秋、名古屋で開かれた生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の会場の一角でも「お庭の生きもの調査」のデータが展示された。同センターの吉井亮太さん(42)は「庭は最も身近な自然であり、市街地の生き物にとっても大切な生息場所なのです」と言う。参加者には結果報告書が送られる。

申し込みは同センターのホームページ(<http://www.wildlife.jp/>)か、E-mail(info@wildlife.jp)か、お問い合わせは同センター(042・390・0000)まで。

近江すたいる

水質、生態…家族で楽しむ

●読者新聞(滋賀県版)でも取り上げて頂きました。

●「お庭の生きもの調査」は、以下のような皆様にご協力いただきました。

「お庭の生きもの調査」へ参加登録していただいた方のお住まいや年齢層などのプロフィールです。ご協力ありがとうございました。

▼都道府県別登録者数

北海道	5	東京都	76	滋賀県	27	香川県	10	
青森県	4	神奈川県	73	京都府	26	愛媛県	8	
岩手県	5	新潟県	10	大阪府	35	高知県	3	
宮城県	17	富山県	3	兵庫県	56	福岡県	32	
秋田県	1	石川県	1	奈良県	19	佐賀県	6	
山形県	6	福井県	6	和歌山県	9	長崎県	7	
福島県	13	山梨県	8	鳥取県	2	熊本県	7	
茨城県	27	長野県	7	島根県	4	大分県	8	
栃木県	22	岐阜県	34	岡山県	26	宮崎県	1	
群馬県	11	静岡県	33	広島県	20	鹿児島県	1	
埼玉県	50	愛知県	78	山口県	20	沖縄県	2	
千葉県	55	三重県	30	徳島県	4	不明	4	
							計	912

▼年齢層別登録者数

～10代	60
20代	4
30代	110
40代	161
50代	177
60代	280
70代～	99
不明	21
計	912

●「お庭の生きもの調査」は、今後も続いていきます。

ご興味のある方は、ぜひ調査への参加をご検討ください。



○第3回(2012年度)の調査は、5～8月の期間に実施いたします。

その間に、可能ならば毎月、お忙しければ1回のみでも結構ですので、調査結果をご報告ください。調査の内容や方法に変更はなく、生きもの初心者の方も、ベテランの方も、自宅で楽しみながら生物多様性保全活動に参加することができる調査になっていますので、ご賛同いただけるようであれば、ぜひエントリーをお願いいたします。

▼第3回調査から新たに参加を希望される方は、メンバー登録をお願いいたします。

▼第1・2回調査の際にご登録済みの方は、新たな登録は不要です。

- ・調査シートをご利用の方は、昨年同様、郵送・FAXでご報告ください。
- ・WEBサイトをご利用の方は、これまでと同じID・パスワードで報告専用ページにご入場いただけますので、必要事項を入力し、送信してください。
- ・以前に登録だけはされたものの、調査や報告はできなかった方でも、もちろん参加可能です。

■お問い合わせ、参加申込みは……

[主催]



N P O 法人
生態教育センター
<http://www.wildlife.ne.jp/>

〒189-0013
東京都東村山市栄町 2-28-5 小河原ビル 3F
TEL:042-390-0032 FAX:042-390-1237
e-mail : ikimono@wildlife.ne.jp